



## 学校で学ぶ

学校長 久城 博之

例年の半分ほどの短い夏休みの後、1週間の短縮授業を経て、通常の学校生活が始まりました。感染症や熱中症対策をしながらも、子どもたちは落ち着いて勉強に取り組み、仲良く生活している様子が見られます。

さて、先日は暑い中、学年懇談会にお越しいただきましてありがとうございました。今後の行事予定なども各担任を通してお話しさせていただきましたが、依然として連日、新型コロナウイルス関連のニュースが報じられています。安全に行事を進めていくために、今後また変更しなくてはならないこともあるかもしれませんが、そのときにはご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

ところで、教育現場では今回の新型コロナウイルス感染症での緊急事態の中で、子どもたちの学びを保障するために様々な取組がなされてきましたが、今後も災害や感染症等による学校の臨時休養など緊急時においても学ぶことができるよう、ICTの活用が叫ばれています。昨年末に文部科学省が出した「GIGAスクール構想」は、今後小中学生が一人一台のパソコンやタブレット端末を使えるようにして、高速大容量の通信ネットワーク環境を整える計画です。これによって例えば、一人ひとりがAIによる算数ドリルに取り組み、つまづいているところを学習したり、国語では自分で推敲しながら作文を書いたりすることができます。何よりも自由に調べ、表現し、発信できるようにもなります。さらに、一斉授業のスタイルから変化していくかもしれません。

しかし、教室で色々な話をしたり、表情を見合ったり、話を聞いて頷いたりといったちょっとしたことも、子どもたちの成長のために欠かすことのできない大きな要素です。今後、学校ではその両方の良さを生かした新しいスタイルにしていかななくてはならないでしょう。

さらに学校は学力をつけるだけでなく、人格形成の場でもあります。子どもたちに、「学校に行きたい」「学校には自分を待っていてくれる人がいる」「大切な仲間がいる」と思ってもらえるように、私たちはしっかりと支援していきます。